中学校の実践

1　指導の計画

(1)　教　材

ア　教材名　「モアイは語る－地球の未来」(光村図書『国語2』)

イ　目　標

「モアイは語る－地球の未来」を読み、説明的な文章の論理的な展開をとらえて、「イースター島の例を基に、人類が生き延びるためには、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」という筆者の主張を読み取るとともに、「地球の未来」についての自分なりの考えをまとめる。

(2)　教材の指導計画

過程	思考力の要素	時間	主な学習活動	評価項目
つかむ	【A】言語情報への主体的な働きかけ	1 ①	◎「モアイは語る－地球の未来」という題名から「モアイ」はどんな「地球の未来」を語っているのかを考えて、本文の内容を予想する。 ◎題名から予想したことを踏まえながら本文を読み、「地球の未来」について述べている文を探す。 ◎全体の構成を考えながら、問題提起や結論を述べている文を把握する。	題名から内容を予想したり、筆者の意図を考えたりして、教材に対する興味をもつとともに、問題提起や結論部分を把握している。
		1 ②	◎1段落に示された問題提起と3段落に示された結論部分とを確認し、そのつながりを読み取っていくための課題をつかむ。 **(課題)「わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題」とあるが、それにはどのような「問題点」があり、その解決策はどうあるべきか。**	「地球の未来」について述べている文を基にして、問題提起と結論部分とに着目し、教材を読むための課題をつかんでいる。
深める	【B】言語情報の正確な把握 【C】言語情報と生活体験との関連付け 【D】既有の知識や体験に基づく言語情報の評価	1 ③	◎「課題」について、2段落から「イースター島」に関する記述内容を探し、ワークシートに記入する。	2段落から「イースター島」に関する記述内容を探し、要点をまとめている。
		1 ④	◎「課題」にかかわる「現在の地球」が抱える問題点を3段落から見付けるとともに、サブテキスト（地理の教科書や資料集）から関連する事柄を見付け、「課題」の中の「問題点」についての自分なりの考えをまとめる。	「現在の地球」が抱える問題点を見付けたり、サブテキストからの関連する事柄を見付けたりして、「イースター島」の記述内容との比較を図っている。
		1 ⑤	◎「課題」について具体的に読み取っていくための観点（人口の増加、森林の破壊、食糧・資源問題、土壌の流失）から、自分が追究したいものを選択し、その観点に沿って、ワークシートに自分なりの「問題点」に対する解決策をまとめる。	選択した観点に沿って、記述内容の的確性や必要性について吟味し、自分なりの「問題点」に対する解決策をまとめている。
まとめる	【E】新たな思考の生み出しと言語化	2 ⑥ ⑦	◎自分で選んだ観点に合った「イースター島」に関する記述や、それに対応する「現在の地球」の記述を比較し、文章構成を工夫して、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめる。	文章構成例を基に、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめている。

2　実践の概要と考察

毎時間の授業の様子について以下に述べるが、生徒の読み取りがどのように深まっていったかを、学級全体の姿と抽出生徒の両面から整理した。

抽出生徒は、次の二名である。

生徒A

○レディネステストでは、問題提起文や要旨、段落構成を問う問題において的確な解答をしており、これまでの生活経験を踏まえた自分なりの考えを、ある程度、まとめることができていた。

生徒B

○レディネステストでは、問題提起文や要旨、段落構成を問う問題において無答であり、簡単な感想しか書くことができなかった。

(1)　つかむ過程

ここでは、思考力の要素「**【A】言語情報への主体的な働きかけ**」を踏まえて、結論を見通し、読みの課題をつかむ学習活動を行った。

≪1時間目≫

本時のねらい

題名から書いてある内容を予想し、本文中から「地球の未来」を考えている文を探す。

学習活動①

「モアイは語る―地球の未来」という題名から考えて、「モアイ」はどんな「地球の未来」を語っているのか、書いてある内容を予想する。

本時では、生徒が教材に興味をもてるように、はじめにモアイについて知っていることやモアイに対するイメージを、ワークシートに書き出すよう促した。その上で題名から予想できることをワークシートに書かせた。その際には、題名に倒置法が使われていることを紹介し、「モアイは（…という）地球の未来について語っている。」という書き方も参考にするよう促した。

ここでの主な記述内容は、以下のとおりである。

○モアイについて知っていること：石像、イースター島、大きい、顔、守り神

○題名読み：モアイから予想される地球の未来、モアイと地球の関係、モアイが作られたわけ

学習活動②

本文中の「地球の未来」を考えている文を探し、文頭に○印を付ける。

ここでは、「地球の未来」にかかわる記述を探したり、探した中から筆者の主張（要旨）にかかわる文を選んだりするよう促した。

ここでの生徒の様子は、以下のとおりであった。

○自力解決の時間を十分に確保した後、クラス全体の場で、教科書の叙述の順番に答えの文を確認しながら一緒に考えていった。そのために、ほぼ全員の生徒が「地球の未来」にかかわる記述のほとんどを探したり、筆者の主張（要旨）にかかわる文を選ぶことができていた。

考察

○生徒は、モアイに対してのイメージをある程度膨らますことができ、教材に対する関心が高まり、題名から書いてある内容を予想することもできていた。これらは、作品を主体的に読み進めていく準備が整ってきたものと考える。

≪2時間目≫

本時のねらい

①段落に示された問題提起と③段落に示された結論部分とを確認し、そのつながりを読み取っていくための課題をつかむ。

学習活動①

筆者がこの文章を通じて、読者に考えてほしいことや主張したいことは何かを考える。

ここでは、問題提起と結論部分とを探す時に、「地球の未来」に関係している文から探したり、教材文の文章構成を参考にしたり、筆者の主張にかかわる文の中から探したりするよう促した。

ここでの主な記述内容は以下のとおりである。

○読者に考えてほしいこと：「実はこの絶海の孤島で起きた出来事は、わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題を投げかけているのである。」という正解の記述が大半であったが、中には、②段落をさらに４つの段落に分けた時の課題にあたる記述もあった。

○読者に主張したいこと：「とするならば、わたしたちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」という正解の記述がほとんどであった。

生徒A

○ワークシートの記述は、二カ所とも、前述した正解の記述であった。

生徒B

○前時の課題であった「『地球の未来』を考えている文」に線を引くことが十分にできなかったため、まずこのことを指導し、その後、本時の課題に取り組ませた。「主張したいこと」は、

要旨にかかわる三つの文を示して、その中から選ばせることで探すことができたが、「考えてほしいこと」は見付けることができず、板書を視写していた。

学習活動②

「読みの課題」(問題提起と結論部分とのつながりを読み取っていくための課題)を推測する。

ここでは、「二つの筆者の意見から、どんなことを考えながら②段落を読んでいけばよいと思いますか。」という発問をし、「読みの課題」を作るために「②段落を読んでいく時に、二つの筆者の意見から問題を作るとするならば、どんな問題ができると思いますか。」というヒントを与えた。

ここでの生徒の様子は、以下のとおりであった。

○自力解決の時間を十分に確保したが、自分の力だけで「読みの課題」を推測できた生徒は一人もいなかった。そこで、クラス全体の場で「読みの課題」の作り方を確認し、その意味について一緒に考えていった。

考察

○次の二つの手立てを講じたことで、「筆者が読者に考えてほしいこと・主張したいこと」が見付けやすくなったと考える。

①教材文全体の中から探すのではなく、前時に確認した「地球の未来」に関係している文の中から選んだり、筆者の主張にかかわる三つの文の中から一文を選んだりした。

②文章全体が序論・本論・結論の三つの意味段落に分けられることや、それぞれの段落の役割（問題提起・具体的な事例・筆者の主張）を理解・活用して、①段落から一文、③段落から一文を探した。

○自分の力だけで「読みの課題」を推測できた生徒はいなかったが、序論と結論部分から「読みの課題」を導き出せるということが分かり、生徒にとっては、これからこの文章を読んでいくことに対する意欲付けになったり、必然性が生まれたりしたと考える。

○生徒Ａについては「読みの課題」をしっかりと把握することができたため、この課題を基に、目的意識をもって、自力で②段落を進んで読んでいくことが可能になったと考える。

○生徒Ｂについては、「読みの課題」の重要性に対する認識が浅く、②段落を読んでいく目的意識があまり高まっていなかった。

(2)　深める過程

ここでは、思考力の要素「**【B】言語情報の正確な把握**」と「**【C】言語情報と生活体験との関連付け**」と「**【D】既有の知識や体験に基づく言語情報の評価**」を踏まえて、「読みの課題」に基づき筆者の論旨を正確に読み取るとともに、その論旨に対する自らの考えを明らかにする学習活動を行った。

≪3時間目≫

本時のねらい

「読みの課題」に沿って、筆者の意見の論旨につながると予想される事実（具体的な記述）を教科書本文（②段落）から取り出す。

学習活動

「読みの課題」について、②段落から「イースター島」に関する記述内容を自分なりに考えて探し、簡潔にまとめる。

ここでは、②段落を「質問」ごとに四つの小段落に分け、「『わたしたちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題』とあるが、どんな『問題点』があるのか。」という「読みの課題」に対して、②段落から「イースター島」に関する記述内容を自分なりに考えて探し、それを簡潔にまとめて黄色の付せん紙に記入するよう促した。また、この過程からは、少人数グループ（３～４人）による意見交流も導入した。

ここでの主な記述内容は以下のとおりである。

○小段落(１)：「モアイの製造開始」「この島の人口の急激な増加」「人口が百年ごとに二倍ずつ増加」「十六世紀には一万五千から二万」

○小段落(２)：「現在のイースター島→ユーカリの木しかない広大な草原」

○小段落(３)：「家屋の材料や日々の薪、農耕地を作るため→伐採」「モアイ製造の開始→運搬用のころや支柱として使われるようになる」

○小段落（４）：「表層土壌の流失→主食のバナナやタロイモの栽培は困難」「木がなくなったため→船が造れなくなった、魚を捕れない」「次第に食糧危機に直面」「イースター島の部族間の抗争→頻発」

生徒Ａ

○自分の力だけで、上記のような内容を付せん紙に記述することができていた。

生徒Ｂ

○小段落(１)～(４)の中の(１)を中心に、上記の約八割の内容を記述することができていた。

考察

○2段落を「質問」ごとに四つの小段落に分けたことで、狭い範囲をじっくりと読むことができ、自分なりの考えをもちやすくなったと考える。

○生徒を少人数（三～四人）のグループに分け、各自の書き込みを基に、意見交流させた。その結果、最初は自分の意見をもてなかったり、もっていても自信がなかったりした生徒が、友達の意見を聞くことにより、自分の意見をもてるようになったと考える。

○生徒Aについては、文章全体の段落構成が十分に把握できており、「読みの課題」に対する理解も深かったため、他の生徒と同様に自分で課題を解決できたと考える。

○生徒Bについては、個別指導を行う中で「イースター島の問題点はどこだと思う？」、「イースター島で悪いところはどこ？」などの補助発問を行ったことが効果的であったと考える。

≪4時間目≫

本時のねらい

「読みの課題」にかかわる「現在の地球」が抱える「問題点」を教科書本文などから見付け、「読みの課題」の中の「問題点」についての自分なりの考えをまとめる。

学習活動

「読みの課題」にかかわる「現在の地球」が抱える「問題点」に関する記述内容について、3段落やサブテキスト（地理の教科書や資料集）から探し、それを簡潔にまとめる。

ここでは、前時にまとめた「イースター島」の記述に対応した「現在の地球」の記述を探すよう促したり、四つの観点（①人口の増加、②森林の破壊、③食糧・資源問題、④土壌の流失）を示して観点ごとにまとめるよう促したりした。また、補助プリントでサブテキストの記述箇所を提示したり、教科書からの記述は黄色の付せん紙を、地理の教科書や資料集からの記述は青色の付せん紙を使用するよう促したりした。

ここでの主な記述内容は以下のとおりである。

○観点①「人口の増加」:「地球始まって以来の異常な人口爆発」「一九五〇年代に二十五億→半世紀もたたないうちに二倍の五十億突破」「このままの人口増加→二〇三〇年には八十億、二〇五〇年には百億」「世界の人口の急速な増加」

○観点②「森林の破壊」:「地球そのもの→森によって支えられているという面」「日本列島の文明の繁栄→国土の七〇パーセント近くが森であることと関係」「森林は文明を守る生命線」「焼畑農業、プランテーション化、木材需要の多さ→熱帯雨林の減少」「木材の切り出し、牧場、農場、鉱山の開発、道路ダム建設、不法伐採→熱帯雨林の破壊」

○観点③「食糧・資源問題」:「地球の人口が八十億を超えた時→食糧不足や資源の不足が恒常化する危険」「森の破壊の先に待つもの→イースター島と同じ飢餓地獄」

○観点④「土壌の流失」:「土壌浸食を防ぐ取組」

生徒A

○自分の力だけで、上記のような内容を付せん紙に記述することができていた。

生徒B

○観点①～④の中の①を中心に、上記の約八割の内容を付せん紙に記述することができていた。

考察

○①～④の四つの観点を示したことで、2段落を四つの意味段落を分けることや要点をまとめることにもつながり、「読みの課題」に対する自分なりの考えがもちやすくなったと考える。

○付せん紙の色を変える工夫を行ったことで、見た目にも整理しやすくなったものと考える。

○生徒Aについては、前時に行った2段落の情報の取り出しがしっかりとできていたため、「現在の地球」についても同じ要領で容易にまとめることができた。

○生徒Bについては、個別指導を行う中で「イースター島でまとめたことと関係しているのはどこ？」「現在の地球の問題点はどこ？」、「現在の地球で悪いところはどこ？」などの補助発問を行ったことが有効であったと考える。

≪5時間目≫

本時のねらい

「読みの課題」について具体的に読み取っていくための観点に沿って、自分なりの「問題点」に対する解決策をまとめる。

学習活動

「読みの課題」について具体的に読み取っていくための観点から自分が追究したいものを選択し、その観点に沿って、「イースター島」と「現在の地球」とを比較して自分なりの「問題点」に対する解決策をまとめる。

ここでは、四つの観点の中から一つを選択した上で、「イースター島」と「現在の地球」とを比較し、「知っていることで付け足すことはどんなことか」、「具体的な問題に対してどうすべきだと考えるのか」、「自分たちには何ができるのか」ということを考えて、赤色の付せん紙に記入するよう促した。

ここでの主な記述内容は以下のとおりである。

○観点①「人口の増加」:「日本は減少傾向→アジアやアフリカは、人口増加傾向」→「一人っ子政策」「発展途上国の子どもの数→減らす策」

○観点②「森林の破壊」:「宅地や耕作地の造成のための森林伐採→森林面積の減少」「いろいろな道具を作るときに使う」「森林の減少が洪水の原因となっている（漁獲量にも影響する）」「地球温暖化、砂漠化、酸性雨による森林被害」→「植林活動をする」「紙やえんぴつ→むだに使わない」「排気ガスを減らす」「ボランティア活動やリサイクルをする」

○観点③「食糧・資源問題」:「原油やとうもろこしや小麦の世界的な値上がり」→「生ゴミ→あまり出さない」「給食を残さない」「リサイクル運動→牛乳パック、ペットボトル」

○観点④「土壌の流失」:「土壌の流出→畑がやせる、土地の砂漠化」「嬬恋村でも大雨の後には畑の土が流れ出す→川の水が黒くにごることが多い」→「土壌浸食への対策技術を伝える」

生徒A

○観点②「森林の破壊」を選択：「酸性雨で森林が破壊」「森林をこわし、ビルの建設」「どんどん森林が消えている」「森林破壊のため、動物絶滅の危険」→「地球は森林によって支えられているので、私たちが生きていくためにとても大切なものだと思った。だから、森林を守るために方法を考えなければいけない」→「広葉樹を植える方がいい、木を使いすぎない」

生徒B

○観点①「人口の増加」を選択：「もしこのまま地球の人口が増加していったら、二百億人もかんたんに通過してしまうのではないか」→「人口を増やさないことを考えなければならない」→「発展途上国の働いている子どもの人数を減らす政策→一人っ子政策」

考察

○四つの観点の中から自分が追究したいものを選択させたことで、意欲的に解決策を考えることにつながったと考える。

○「具体的な問題に対してどうすべきだと考えるのか」、「自分たちには何ができるのか」などについて、生徒の身近な部分で考えさせたことで、「読みの課題」に対する自分なりの考えがもちやすくなったと考える。

○生徒Aについては、「森林の破壊」という自分の身近な部分で考えられる観点を選択したために、前述した内容を容易に自力で付せん紙に記述することができたと考える。

○生徒Bについては、「人口の増加」という観点を選択し、自分なりに考えをまとめようとしたが、なかなか解決策が思い浮かばない様子であった。しかし、授業の後半に行った意見交流によって得た情報を加えたことで、上記のような内容を記述することができた。

(3)　まとめる過程

ここでは、思考力の要素「**【E】新たな思考の生み出しと言語化**」を踏まえて、全体の要旨をとらえ、「読みの課題」について解決を図ることで筆者の論旨の読み取りと筆者の考え方に対する理解と考えを深める学習活動を行った。

≪6時間目≫

本時のねらい

自分で選んだ観点に合った「イースター島」に関する記述と、それに対応する「現在の地球」の記述とを比較して、自分なりの考えをまとめる。

学習活動

「イースター島」と「現在の地球」との比較、自分で選んだ観点、教科書やサブテキストからの事例などの記述内容を整理し、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめるための構想を練る。

ここでは、自分で選んだ観点に合った「イースター島」に関する記述と、それに対応する「現在の地球」の記述との比較の仕方や、自分で選んだ観点の記述内容の整理の仕方、自分で選んだ観点に合った事例の掲載箇所、および文章構成例（①序論：比較・観点、②本論：事例、③結論：主張《解決策》）を提示した。

ここでの生徒の様子は、以下のとおりであった。

○「イースター島」と「現在の地球」との比較や、自分で選んだ観点については、ほとんどの生徒

が記述内容を整理することができていた。
○教科書やサブテキストからの事例については、掲載箇所を補助プリントで示したため、教科書やサブテキストを読み込んでいる姿が目立った。
○文章構成については、比較の中に事例を入れ込み、①序論：観点、②本論：比較・事例、③結論：主張（解決策）という文章構成が多かった。

生徒A
○自分の力だけで、上記のような内容をワークシートに記述することができていた。

生徒B
○「イースター島」と「現在の地球」との比較や、観点の記述内容の整理にとまどっていた。

考察
○前時までに行った「イースター島」と「現在の地球」とを比較した表を作成していく中で、教科書やサブテキストなどからの情報を取り出すことができた生徒が多かったために、導入で示した例示だけで、生徒は容易に記述内容を整理することができたと考える。
○事例の掲載箇所を示したことで、多くの生徒が、何らかの形で文章構成の中に事例を入れることができたものと考える。
○生徒Aについては、本時の授業の導入部分で行った各種の例示に対する理解ができていたために、記述内容が整理できたものと考える。
○生徒Bについては、前時までの情報の取り出しが不十分であったために文章化にとまどったものと考える。そこで、「イースター島」と「現在の地球」とを比較した表を基に、教科書本文の叙述に戻って指導を行った結果、記述内容を整理することができた。

≪7時間目≫

本時のねらい

作品から読み取った筆者の考えを基に、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめる。

学習活動

作品から読み取ったことを基に、「地球の未来」に関する自分なりの考えを、①比較・観点、②事例、③主張（解決策）という文章構成例を参考にしてまとめ、意見交流を通して、その考えをより良いものにする。

ここでは、前時までのワークシートを活用させて、①比較・観点、②事例、③主張（解決策）という文章構成例を基に、それぞれの項目の記述内容を整理したものの構成を考えるよう促した。また、意見交流における友達からのコメントや作品から読み取ったことを基に、自分なりの考えをもう一度振り返るよう促した。

ここでの生徒の様子は、以下のとおりであった。
○約八割の生徒が、箇条書きや短い文などで自分なりの主張（解決策）を考えられていた。また約四割の生徒が、比較の中に事例を入れるなど、文章構成を工夫していた。
○生徒の書いた意見文中の観点や主張（解決策）の記述には、作品の要旨を踏まえ、短いながらも自らの生活体験に基づいた記述や自分なりの新たな価値観を表現する記述が数多く見られた。

生徒A
○《文章構成》序論：事例を含んだ観点、本論：事例を含んだ比較、結論：主張（解決策）

生徒B
○《文章構成》序論：事例を含んだ観点、本論：比較、③結論：主張（解決策）

考察
○前時までのワークシートを活用したことで、作品から読み取ったことを基に、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめ、文章等で表現することが容易になったと考える。
○生徒Aについては、筆者の考えが十分に読み取れていたために、「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめることができたと考える。
○生徒Bについては、時間的な制約もあって事例の掲載箇所の読み込みが不足したが、序論部分に教科書からの事例を入れることができた。

(3)　実践のまとめ

○ほぼ全員の生徒が、作品から読み取った筆者の考えを基に「地球の未来」に関する自分なりの考えをまとめることができた。このことから、思考力の要素【A】～【E】に着目して計画した指導過程は、論理的な思考力を育てる上で有効であったと考える。
○「深める過程」では、「イースター島」と「現在の地球」とを比較した表を作成した。その過程で、教科書やサブテキストなどからの情報の取り出しが不十分であった生徒は、自分なりの解決策をまとめる場面で苦労している様子が見られた。情報を取り出す時には、範囲（段落）を限定したり、読みの課題をさらに焦点化したりするなどの手立てが必要であると考える。